

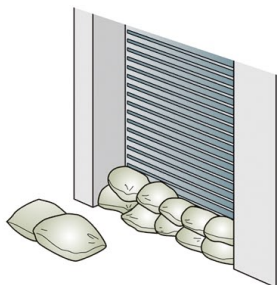
2 家庭でできる浸水対策

簡易水防工法

家庭でできる浸水対策として、「土のう」や「止水シート」、「簡易水のう」を使って浸水を防止する方法があります。

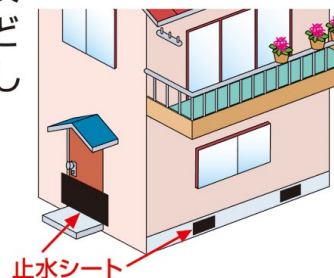
●土のう

いざという時のために、事前に土のうを準備しておき、浸水を防ぎましょう。



●止水シート

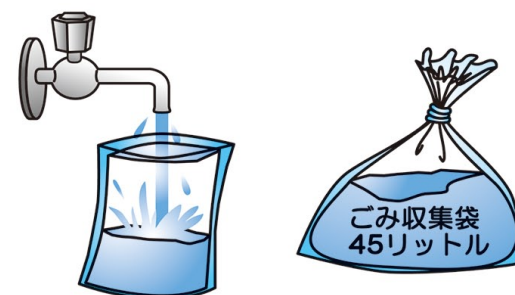
建物の玄関ドアや換気口を止水シートなどで塞ぎ、浸水を防ぎましょう。



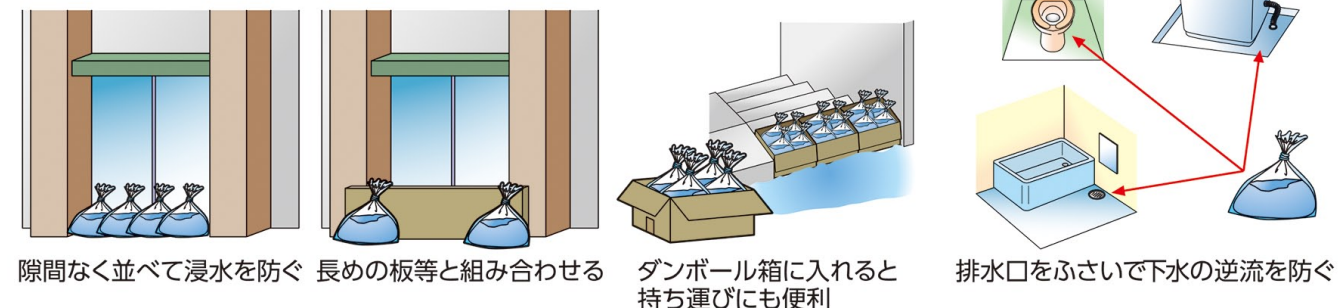
●簡易水のう

■簡易水のうの作り方

45リットル程度の容量のごみ袋を二重にし、中に半分程度の水を入れ中袋、外袋ともひもでしばります。(持ち運べる程度)



■簡易水のうの利用方法



土のうステーションの利用

市では台風、大雨などに備え、いつでも土のうを使用できるように、土のうステーション(土のう置き場)を設置しています。設置場所は、洪水ハザードマップや焼津市水防監視システム(P.18参照)で確認できます。

●利用上の注意

- ・持ち出しは原則として、1世帯20袋までです。
- ・水防以外の利用目的での持ち出しはできません。
- ・使用後の土のうは返却せず、各世帯で保管などをお願いします。
- ・土のうが不足している時は、河川課へ連絡してください。



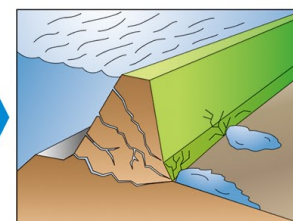
3 水害発生メカニズム

外水氾濫(洪水)発生メカニズム

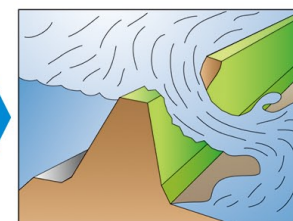
大雨によって、河川の水が溢れたり、堤防が崩れた場合、水が勢いよく流れ出します。これを「外水氾濫」といいます。



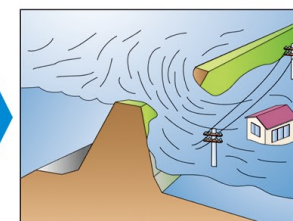
大雨によって川の水が増え、水かさ上がり始めます。



堤防いっぱいまで水が増え、堤防に水の圧力がかかり始めます。



水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなった場合、堤防の一部が崩れ始めます。



崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出します。

内水氾濫発生メカニズム

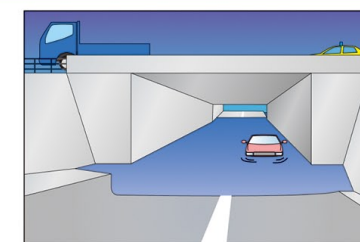
大雨で河川の水位が上がると、市街地などで降った雨水を河川に排水できなくなり、水が溢れてしまいます。これを「内水氾濫」といいます。



街などに降った雨は、水路などを通して川に排水されます。



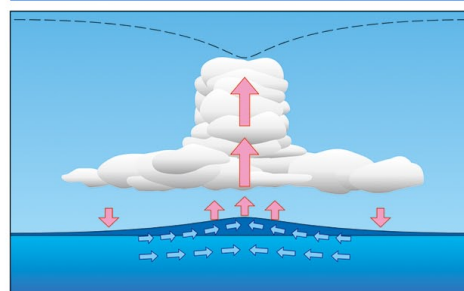
大雨が降ると河川の水位が上がり、排水されにくくなり、水路などが溢れてしまいます。



道路や鉄道の高架下など道路が低くなっている所に、雨水がたまり冠水します。

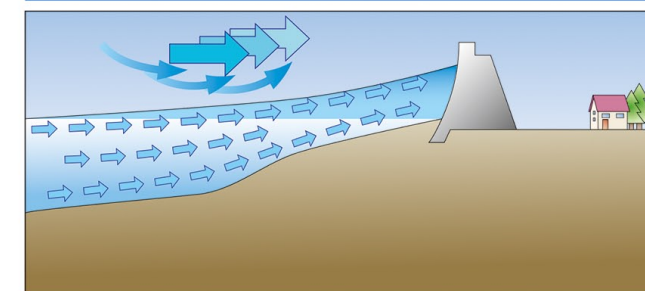
高潮発生メカニズム

気圧低下による海面の吸い上げ



台風や低気圧の中心では、気圧が周辺より低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。

風による吹き寄せ



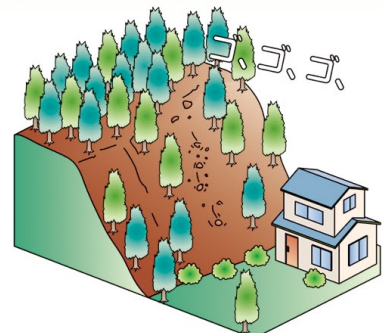
台風に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海岸付近の海面が上昇します。水深が浅いほど、風の吹き寄せ作用がよく働き、高潮が発達しやすくなります。

4 土砂災害の基礎知識

土砂災害の種類

土砂災害は、大雨や地震などが引き金となって、山やがけが崩れたり、水と混じり合った土や石が川から流れたりして、家や田畑に被害を及ぼす自然災害です。主なものとして、「**がけ崩れ(急傾斜地崩壊)**」「**土石流**」「**地すべり**」などがあります。

がけ崩れ(急傾斜地崩壊)

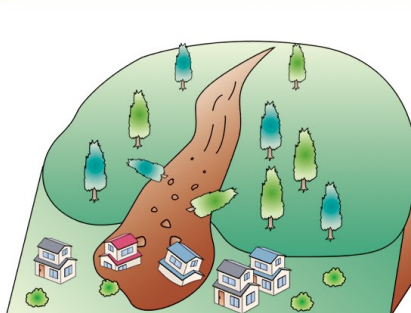


急な斜面が崩れる現象です。

前兆

- がけに割れ目が見える。
- がけから水がわき出ている。
- がけから小石がぱらぱらと落ちてくる。

土石流

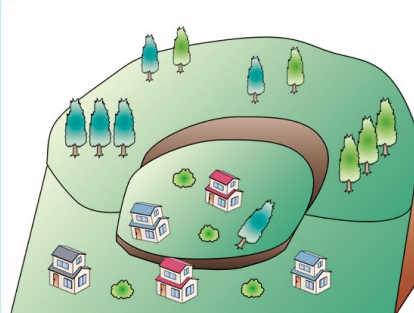


山から崩れた土や石が、水といっしょになって、ものすごい勢いで流れ下ってくる現象です。

前兆

- 山鳴りがする。
- 急に河川の水が濁り、流木が混ざっている。
- 雨が降り続けているのに河川の水位が下がる。

地すべり



やや傾斜のゆるい斜面が、広い範囲にわたってかたまりのまま動く現象です。

前兆

- 沢や井戸の水が濁る。
- 地面にひび割れができる。
- 斜面から水がふき出す。

土砂災害警戒区域等について

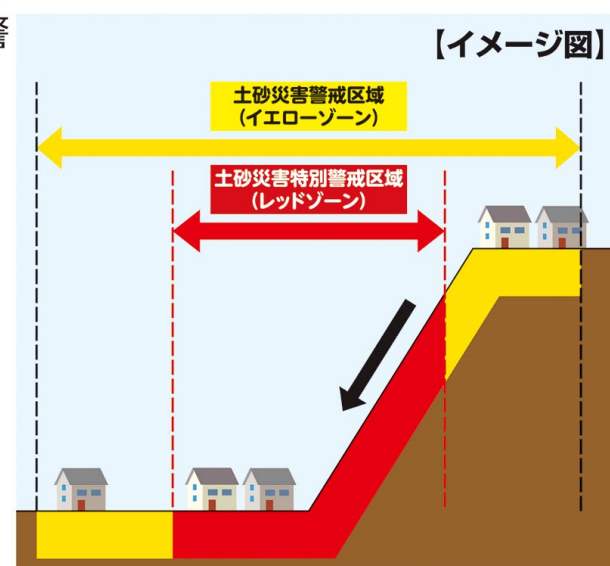
土砂災害の警戒すべき区域には、「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」があります。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

土砂等の崩壊により被害を受けるおそれがある区域(地図上の黄色枠で示しています。)

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

土砂等の崩壊により建築物に損壊が生じ、住民の生命や身体に著しい危害が生じるおそれがある区域(地図上の赤色枠で示しています。)



土砂災害(特別)警戒区域は、焼津市土砂災害ハザードマップでも確認することができます。

焼津市 土砂災害ハザードマップ

検索



5 浸水ナビ

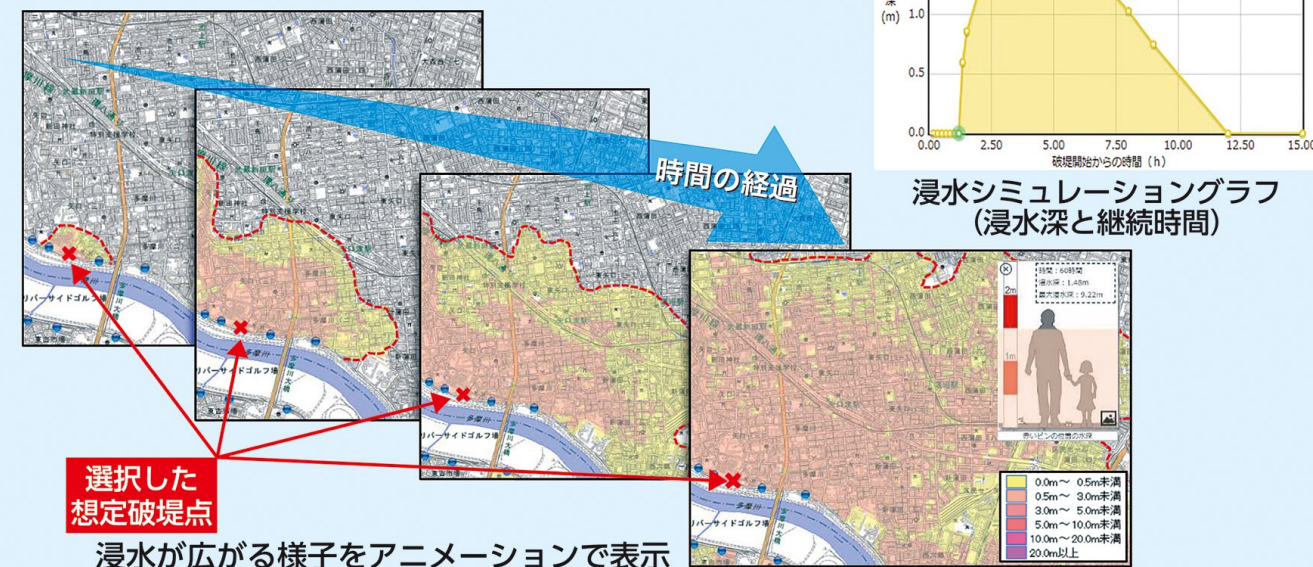
氾濫シミュレーションを使ってみよう

～浸水ナビからわかること～

想定される浸水の情報をより詳しく確認できます。〔対象：大井川・瀬戸川・朝比奈川・葉梨川・栃山川・木屋川〕

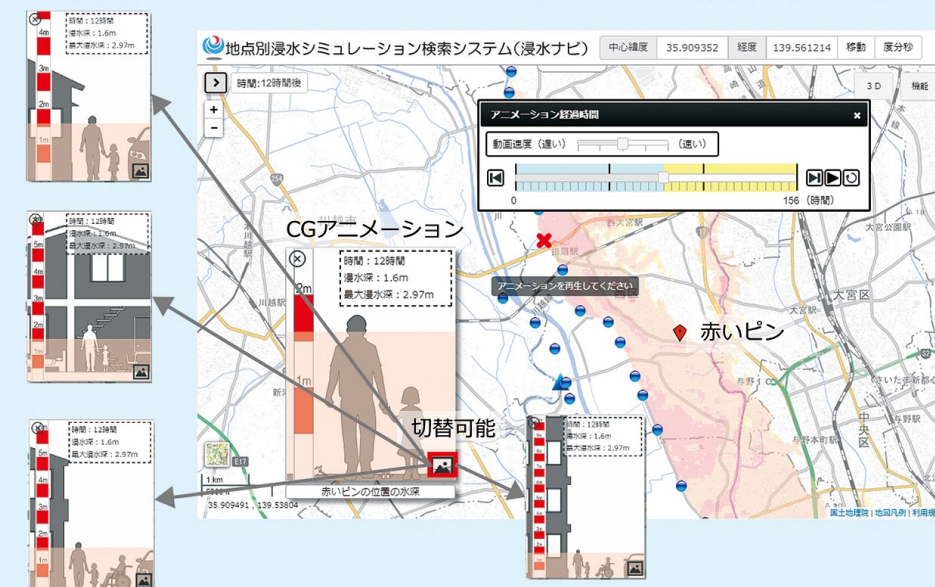
●氾濫が生じた場合の浸水範囲や浸水深の変化が分かります

想定破堤点を選択することで、氾濫した場合の浸水の広がりを地図上に示すほか、調べたい箇所の時間ごとの浸水深をグラフで表示します。



●CGアニメーションでどの程度の浸水深であるかが分かります

スケールの異なった背景（5種類の凡例）を切り替えることで、調べたい箇所（赤いピン位置）の浸水深の変化をCGアニメーションにより分かりやすく表示できます。



ほかにも、浸水到達時間や浸水継続時間が地図上で確認できます。

浸水ナビホームページ

浸水ナビ

検索

アドレス : <https://suiboumap.gsi.go.jp/>

スマートフォンでも利用できます

